

川内原子力発電所の運転期間延長の検証に関する分科会

令和4年1月20日に第1回分科会を開催し、1,2号機の運転期間延長に関する事項について、各委員からさまざまな意見や質問がありました。

委員の互選により、釜江委員が座長に選出されました。



運転期間延長認可制度について(説明:原子力規制庁)

主な質疑応答

- Q** 福島第一原子力発電所事故後、法律が改正され、新たに特別点検を実施する制度ができた意義とは。また、個々の発電所の劣化状況は異なるが、全ての発電所が一様な点検でいいのか。
- A** 特別点検は、40年という節目で、しっかりと網羅的な点検をやっていただき、国はそれをきっちり確認するというものであり、点検については、国は最低限網羅すべきものを示している。九州電力が責任を持って自らの発電所を点検し、安全性を立証していただくことが必要である。

委員コメント

決められたことだけを粛々とやるのではなく、川内原子力発電所に特化したようなことも、より積極的に説明していただき、分科会のなかで議論していきたい。

川内原子力発電所の特別点検の概要について(説明:九州電力)

主な質疑応答

- Q** 本日は、運転期間延長認可制度における特別点検や劣化状況評価(高経年化技術評価)の概要などについての説明であったが、川内原子力発電所のそれぞれの設備において、延長期間における健全性がどのように評価されるのかが、一般の方を含めて分かりにくいのではないか。
- A** 今後、運転30年目に実施した高経年化技術評価に関する具体的な説明を実施した上で、各設備における健全性をどのように評価するのか説明させていただく。

委員コメント

九州電力には、これまでの経年劣化対策の取組状況について経緯等を含めて明らかにしてもらおうほか、科学的な根拠をしっかりと示し、安全であるという根拠を明らかにして欲しい。

分科会からの提案

提案内容

これまで川内原子力発電所について議論を重ねてきた専門委員会の中から、専門性にとらわれることなく新たに委員として分科会に追加していただきたい。

県の対応

同委員会において幅広い観点から積極的に意見を述べられている佐藤委員を、新たな分科会委員として2月18日に追加した。

川内原子力発電所周辺の

環境放射線・温排水影響調査結果

県では、川内原子力発電所の運転による影響を調べるため、発電所の試運転開始前から、周辺地域の空間放射線量や、周辺で採取した野菜・水等に含まれる放射性物質の測定、温排水の影響を調査しています。

空間放射線量の測定(令和3年7月~9月)

モニタリングポスト(73局)の空間放射線量と、発電所の放水口ポスト(1局)における海水中の放射線量を、テレメータシステムを用いて常時監視しています。また、発電所周辺の49地点において、3か月間の積算線量の測定を行っています。



今回の調査結果は、これまでの調査結果と比較し、異常は認められませんでした。

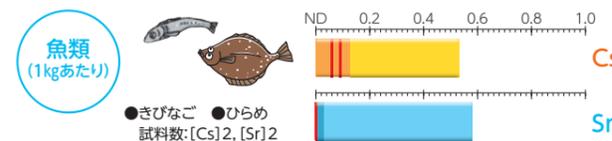
線量率	モニタリングポスト	単位:ナノブレイ/時				
		20	30	40	50	
線量率	北門南局					
	正門西局					
	小平局					
	境界北局					
	境界東局					
	境界南局					
	港					
	久見崎局					
	上野局					
	寄田局					
隈之城局						
計数率(連続測定)	単位:シーピーエム	400	500	600	700	800
3か月間(91日換算)積算線量	単位:ミリブレイ	0.10	0.15	0.20		

環境試料の放射能分析(令和3年7月~9月)

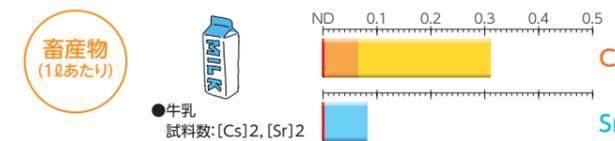
人工の放射性物質であり、環境における蓄積や被ばくの観点から重要なセシウム137、コバルト60、ストロンチウム90、ヨウ素131等について分析しています。今回は海洋試料8試料、陸上試料30試料、合計38試料を対象としています。

今回の調査結果は、これまでと同様、過去に実施された大気圏内核実験等による影響と考えられる、ごく微量のセシウム137、ストロンチウム90が検出されていますが、異常は認められませんでした。

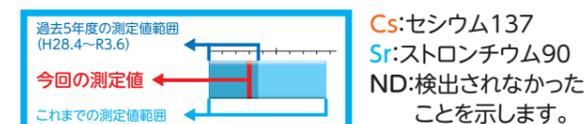
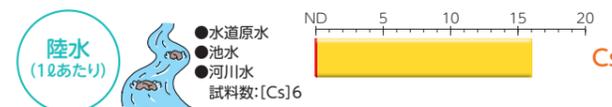
●海産生物



●畜産物



●陸水



温排水影響の調査(令和3年度 春・夏季)

温排水とは、発電所内で蒸気の冷却に使用した後に排出される海水のことです。この温排水が周辺海域に与える影響を把握するために、温排水影響調査を定期的に行っています。

- 水温・塩分調査** 水温計を船でひきながら、水深別に水平分布を調査しました。また、海面から海底までの鉛直分布も調査しました(令和3年7月23日)。
- 流況調査** 海中に流速計を設置し、潮流の向きや速さを調査しました(令和3年7月14日~7月28日)。
- 海生生物調査** 海藻や潮間帯生物の出現した種類や量を調査しました(令和3年5月25日~26日)。

水温・塩分・流況や周辺海域の海生生物の出現状況については、おおむね過去の変動の範囲内でした。



今回の調査結果については、県のホームページに掲載しています。

鹿児島県 環境放射線調査結果 検索



空間放射線量の測定結果については、リアルタイムで県のホームページで公表しています。

鹿児島県 環境放射線テレメータ 検索